

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名 兵庫県

・学校の概要（平成15年4月現在）

| | | | | | | |
|-----|----------------|-----|-----|-------|-----|-----------|
| 学校名 | 川辺郡猪名川町立猪名川中学校 | | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 障害児学級 | 計 | 教員数 34 |
| 学級数 | 5 | 6 | 6 | 2 | 19 | |
| 生徒数 | 196 | 209 | 213 | 2 | 620 | |

・研究の概要

1. 研究主題

少人数授業などきめ細かな指導と選択履修幅の拡大の推進

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・選択教科
 選択教科の履修幅を拡大することにより、生徒の興味・関心等をいかし、主体的な学習の充実を図るため。また、個に応じた指導方法の工夫と改善を図り、基礎基本定着を図るため。

・全学年・数学
 生徒の理解の程度に差が大きい教科であるため。また、昨年度からの取り組みにより基礎・基本の確実な定着を図るため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ
 数学授業の少人数授業化と、選択数学の3コース制による履修幅の拡大。
 研究の見通し
 選択数学を領域別、方法別の3コース設定することで、生徒の興味・関心にあったコースを選択することができ、基礎・基本の定着や、学習意欲の向上につなげることができる。また、数学での少人数授業により、1人ひとりの生徒の状況を把握しやすく、つまずきの早期発見、克服や指導の緊密化が期待できる。
 研究の内容・方法
 選択教科は、3学年ともに、国語、社会、数学、理科、英語の5教科を開設し、数学は3コース制を設定して計7講座を行った。
 少人数授業では、3年生の数学授業において、週3時間全てハーフサイズ授業を実施し、分け方は出席番号で分け、1年間通して同じクラスで行った。

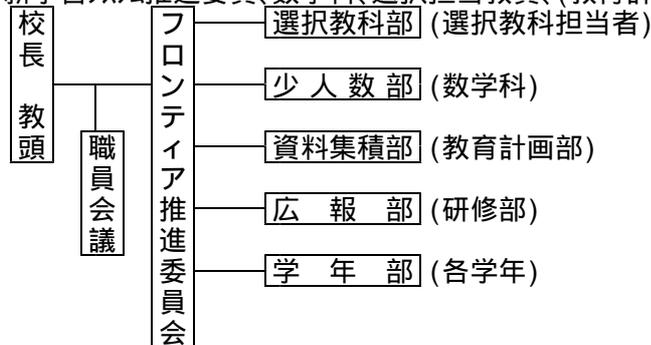
平成15年度
 テーマ
 選択教科では、選択数学の3コース制に加えて選択英語を2コース制に。
 研究の見通し
 選択教科に新たに英語を1コース加えて、英語を2コース制にすることによって定着度に差の大きい英語の基本と発展をpushさせることができる。
 研究の内容・方法
 選択教科では、数学3コース、英語2コースを設けて、基礎・基本の充実を中心に、複数コースでは発展コースの充実にも工夫・改善を図る。

平成16年度
 テーマ
 選択教科の同一教科複数コース設定の拡大と、全学年での数学授業の少人数授業化。
 研究の見通し
 選択教科では、数学、英語以外でも複数コースが開設可能な教科が出てくる気運を高めたい。少人数授業においても、実績を他教科でも応用する方向性

| | |
|--------|--|
| 年 度 | <p>を強調する。</p> <p>研究の内容・方法 選択教科では、数学、英語以外にも複数コースが開設できるようにし、各教科において、基礎・基本の充実を中心に据え、発展コースの充実にも工夫、改善を図る。数学での少人数授業では、「基礎コース」「広げるコース」を設定し、生徒自身に選択させ、個に応じた指導を行う。</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制

学校教育改革推進委員会と連携した学力向上フロンティア推進委員会
 (構成員：校長、教頭、新学習システム推進委員、数学科、選択担当教員、(教育計画担当、学年主任))
 (研究体制)



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・選択教科では、昨年度に引き続き3学年とも7講座で開設でき、学校としての系統的な学習の場を生徒に保障できている。(以前は、年度によって開設講座、教科もバラバラで、見通しがつかなかったが、3年間の展望を立てることができるようになった。)
- ・年度当初から、必修教科との関連を持たせながら系統的に年間計画を立て、計画的な授業実践ができています。
- ・基礎・基本の充実のための選択教科が、生徒の意識の中にも定着し始めた。
- ・数学科・英語科では、方法別のコースや領域別のコースを設定し、より効果の上がる学習が行えている。
- ・少人数授業では、生徒一人一人の理解等をよりきめ細やかに把握することにより、個に応じた効果的な指導を行うことができ、基礎・基本の定着を図ることができています。

2. 今後の課題

- ・選択教科では、どの教科でも基礎・基本の充実から発展までのバリエーションが持てるようなコースを設定していく必要がある。その為に、選択教科の日々の実践の中に新しい試行を含めていくことが大切である。
- ・選択履修幅の拡大のための新たな加配教員を確保することや教室の確保が課題である。
- ・少人数授業では、2つのクラスの進度や演習問題の調整など、教師の打ち合わせを行う必要があり時間が取られがちになる。効率的な打ち合わせになるよう工夫が必要である。
- ・3年以外の1, 2年でも少人数授業の回数を増やすためには、その為の教員の配置と新たな教室の確保が課題である。
- ・少人数授業の「グループ分けの方法」については次年度の課題である。生徒が興味・関心を持てるような教材の開発、指導の方法についての研修を深めていく必要がある。
- ・学習意識調査を年度初めの4月と1月の年2回行い、生徒の変容を捉える。
- ・選択授業についてのアンケート、少人数授業についてのアンケートを3月に取る。
- ・評価テストを実施し、生徒の学力の変化を調査する。
- ・これらの資料をもとに、推進委員会で分析検討し、職員会議に報告する。

・学力把握のための学校としての取組

- ・選択教科においては、各年度末にアンケートを行い、生徒の変容を捉える。また、少人数授業においては、各年度初めと年度末に意識調査を行っている。また、年度末には評価テストを行い、定着の度合いを調査している。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・阪神北地区フロンティア事業研修会 平成15年10月10日(金) 川西市中央公民館
- ・猪名川町フロンティアスクール研究授業 平成15年 7月 9日(水) 猪名川中学校
- ・評価についての研修・交流(猪名川町中学校数学科 平成15年 7月29日(火) 猪名川中学校

